

# 大阪の58歳男性 卵我慢、値引き総菜の日々

## 最賃十7円 生活楽にならず

雇い主が働き手に最低限払わなければならない時給「最低賃金(最賃)」について、今年の引き上げ幅の目安を決める国の議論が進んでいる。政府は「全国加重平均1千円」を表現することで成長と分配の好循環をはかるとするが、1千円を超えてもなお、暮らしは楽にならないのが現実だ。

大阪府は昨年、最低賃金が初めて1千円を超え、1023円になった。

7月中旬、梅雨の雨がしたたる夕刻。高槻市内の運送会社で働く男性(58)が夕食を買いにスーパーを訪れた。「雨なので(客が少なく)、普段より商品が多く残っているな」。値引きのシールが貼られた総菜コーナーで立ち止まった。

大きなチキンカツを手にとった。税抜き358円だったのが100円引きで258円になっていた。「これを2日間に分けて食べる

呼に立ち会うなどの運行管理の仕事をパートタイムでしている。時給は最賃より7円高い1030円。約5年働いているが、大阪府の最賃の1円台の数字を切り上げた金額が、パートの時給となっているという。

男性は13年前に脳出血で倒れ、半身まひとなった。ほかの持病もあり、通院で出勤できない日もある。働いて得た約10万円と障害者年金6万5千円で暮らす。ちょうど、大阪府の最賃で1日8時間、月20日働いた場合(16万3800円)と同程度の収入だ。

物価高騰の波を受け、普段からスーパーの閉店間際に割引になった食品などを購入。1食抜くこともままある。昨年、最賃が1千円を超えたが、「給与があが

週に5日、午前10時から午後4時まで、運転手の点

### 大阪府 最低賃金

# 1,023円

大阪府は昨年最低賃金が1時間あたり1千円を超えた



値引きされたチキンカツ(写真の一部を加工しています)

ったという実感はない。国が動いてくれないと会社は賃上げしない」と、最賃の議論に期待を寄せると、政府は最賃の引き上げを重視はしている。6月に閣

議決定した「骨太の方針」では、最賃が全国加重平均1千円を超えることも視野に、労使などでつくる「最低賃金審議会」で議論することなどが盛り込まれた。

## 1000円十分と言えず

ただ、1千円なら十分かというところではない。

労働組合の中央組織・連合は、最低限の生活を営むのに必要な賃金水準を推計している。2021年末に

発表したものに最近の物価上昇を反映させて計算し直す。東京は1230円、大阪では1100円が必要だった。最も低い宮崎や鹿児島でも990円(両県の

現在の最賃は858円)。自動車保有する場合は1300円弱にふくらむ。連合の仁平肇・総合政策推進局長は「最低賃金は生活するのに必要なお金にまったく届いておらず、加重平均で1千円を超えればクリアしたというものではない」と語る。

だが、最低賃金を支払わない事業者もいる。厚生労働省が23年1〜3月に全国の労働局を通して最低賃金の実施状況を調べたところ、1万5105事業場のうち、1558で最賃法違反があった。コロナ禍で監督を一部延期した21年を除いて、違反率は10%強となっている。

労働問題に詳しい小野順子弁護士は、自身の賃金が最賃を下回っているかもしれないと思うなら、「労働局や弁護士、労働組合などに相談を」と話す。「社会保険や税負担もあるので、1千円で十分な賃金とはいえない。あくまで、一里塚のような目標だ」

(吉田貴司)